

## 平成19年度 第2回 鳥取大学経営協議会 議事要旨

日 時 平成19年9月13日(木) 13:15～15:00  
場 所 鳥取大学事務局 第1会議室  
出席者 岡本 公男、柴田 英杞、永瀬 正治、長谷川 善一、古澤 巖、  
吉岡 秀樹、能勢学長、高木理事、林理事、小林副学長、井藤副学長、  
豊島病院長の各委員  
欠席者 平井 伸治 委員  
[陪席者] 森本監事、本名理事、岩崎理事、高阪副学長、永山副学長、  
清水副学長、岡田地域学部長、井上医学部長、中島農学部長、  
河合工学部長

議事に先立ち、学長から政府の方針に従って大学の経営を考えることになるが、87大学において地域間格差が広がってきており、地方の大学は経営が厳しくなっている。本学の経営については、概ね良好であるという評価をいただいているが、改めて、大学の存在意義や、どのような卒業生を送り出しているのか等を含めた教員の質の確保などについて問われている。このようなことも併せて、本日はご審議いただきたい旨の挨拶があった。

### 議 事

#### 1. 医学部医学科における共通教育（教養教育）の米子移転について

学長から、医学部医学科における共通教育（教養教育）の米子移転について審議願いたい旨の提案があり、本名理事から、資料1に基づき、医学教育改革の流れとして、高齢化社会等の社会的な変化を受けて医学教育が大きく変化してきており、医学部からの要請に基づき、これまでの問題点、今後の目標や方策、さらには鳥取大学の将来、経営状態、地域社会に及ぼす影響、医療人養成の観点から種々検討を行い、医学科学生に係る共通教育（教養教育）を平成20年度から2年間、試行的に米子で行うこととなった旨の説明があった。なお、2年間の試行期間を経て評価を行い、その後も米子で行うか鳥取に戻すかを判断することとなる旨の説明があり、審議の結果、了承された。

#### ◇外部委員からの主な発言等

岡本委員) 共通教育の米子移転については、本学の卒業生としても一抹の寂しさを感じる。医学部学生は理系の人間として入学してくる。患者と対面する上で大切なものは、技術的なものだけでは

なく、文化的な素養が重要であると思うが、最近の学生には倫理学や政治学的な要素が欠けていると感じている。世の中が求めているのは人間的な医者であり、鳥取大学としては技術面だけではなく、倫理観のある医者を送り出して欲しい。

ただし、より良い医者を育成するという面では賛成である。鳥取、米子の交流をどのように行っていくかが課題である。

また、2年間の試行で良いか悪いかを判断するのは早すぎるのではないか。卒業した時にどのような人材を育てたかを見て欲しい。

⇒ コアカリキュラムの理念として、入学時から卒業時まで一貫して一般教養を学ぶこととなっており、本学においても、倫理学については3年・4年次に学べるようにしている。人間味のある医師を育てていくよう配慮し、十分なカリキュラムを編成している。また、評価について、教育の結果は2年で計れるものではないと理解している。カリキュラムがきちんとできているのか、学生のモニタリングを行いながら評価するものである。

永瀬委員) 鳥取での1年次の生活が、その後の5年間に影響があるのかを教えて欲しい。人間のネットワーク形成を考えた場合、医師はそのようなベースがなければうまくいかないと思う。

⇒ かつては、鳥取地区で2年間の教養教育を行っていたが、現在は1年間である。1年間の鳥取での生活が良いという学生もいれば、米子に早く来たいという学生もいる。他学部の学生と交流することは大切だと思うが、実際の授業では医学部学生のみクラス編成だし、クラブ活動においても連合ではなく、医学部学生のみ同好会を作ったりしており、総合大学のメリットが活かされていない。医師不足の問題もあり、医学部教員が1年次から学生とのコミュニケーションを図りながら、大学・地域に根ざす人材を育てたいという判断である。

## 2. 医学部附属病院保育所の整備について

学長から、医学部附属病院保育所の整備について審議願いたい旨の提案があり、豊島病院長から、資料2に基づき、現在、定員20名の保育室を

有しているが、男女共同参画及び次世代育成支援対策推進法の趣旨に沿って、職員の就業と育児の両立支援をさらに推進するため、現有の保育施設を廃止し、新たに病院敷地内に定員60名の保育所を設置する旨の説明があった。また、保育料については、米子市認可保育所保育料と同等に設定していること、保育対象児を現行の3歳児までを6歳児までに拡大すること、保育所の建築費が約9千5百万円必要となるが、21世紀職業財団から2千3百万円の助成が出ること、の補足説明があった。引き続き、今後の運営の見込額が毎年5千5百万円であるのに対し、保育料収入が3千9百万円であり、不足分である1千8百万円（1千6百万円＋消費税相当額2百万円）を毎年病院から充当したい旨の説明があり、審議の結果、了承された。

◇外部委員からの主な発言等

柴田委員) 女性に対する環境整備は女性としてもありがたいし、男女共同参画事業や女性研究者支援事業としても不可欠だと思います。今後とも一層充実されることを期待しています。

なお、この事業は経営の観点から、収支が赤字になっているが、費用対効果（補填方策等）についてはどのように考えていますか。

⇒ 患者様へこれまで以上に手厚い看護を行うため、看護師を多数採用し7対1の看護としている。それにより6億円の増収が見込まれ、人件費5億円を差し引いても1億円の収益があり、運営費の不足分を差し引いても増収が見込まれることから十分な体力はあると考えている。

### 3. 医学部医学科地域医療学講座（寄附講座）の開設について

学長から、医学部医学科地域医療学講座（寄附講座）の開設について審議願いたい旨の提案があり、井藤副学長から、鳥取大学医学部では従来から山陰地域での医療を担うほか、兵庫県北部とも多分に関わっていること、また、兵庫県の北部と南部では医療状況が異なること等、寄附講座開設の背景について説明があった後、兵庫県からの要請に基づき、地域医療に関する研究拠点を設置し、地域医療に関する研究を行うとともに、その研究成果の普及を行い地域医療の向上に寄与するため、地域医療学講座（寄附講座）を開設したい旨の説明があり、審議の結果、了承された。

## 報 告

### 1. 平成20年度概算要求（概要）について

高木理事から、資料4に基づき、文部科学省から財務省へ概算要求された内容及び要求額について報告があった。

### 2. 平成18年度財務諸表の承認について

高木理事から、資料5に基づき、平成18年度財務諸表の承認について報告があった。併せて、当期総利益は全国の国立大学法人で7位に入っていること、目的積立金は、当期総利益23億のうち7億5千万円が現金として残っており、87大学中24位であること等から、財政的には問題ない旨説明があった。

また、同規模大学との各種財務比率の比較、附属病院が実質赤字の国立大学法人について説明があり、本学の健全性等について報告があった。

### 3. グローバルCOEの採択について

岩崎理事から、資料6に基づき、中国地方で唯一グローバルCOEに採択された「乾燥地科学拠点の世界展開」について報告があった。

### 4. がんプロフェッショナル養成プランの採択について

井藤副学長から、資料7に基づき、がんプロフェッショナル養成プランに採択された「銀の道で結ぶがん医療人養成コンソーシアム」について報告があった。

### 5. 平成18年度業務実績報告書に係るヒアリングについて

小林副学長から、資料8に基づき、国立大学法人評価委員会から、中期目標・中期計画の達成に向けて、順調に進んでいるという評価を受けている旨等の報告があった。

以 上

## 平成19年度第2回鳥取大学経営協議会の開催について

日 時 平成19年9月13日（木）13：15～

場 所 鳥取大学 事務局3階 第1会議室

### 議 題

1. 医学部医学科における共通教育（教養教育）の米子移転について
2. 医学部附属病院保育所の整備について
3. 医学部医学科地域医療学講座（寄附講座）の開設について
4. その他

### 報 告

1. 平成20年度概算要求について
2. 平成18年度財務諸表の承認について
3. グローバルCOEの採択について
4. がんプロフェッショナル養成プランの採択について
5. 平成18年度業務実績報告書に係るヒアリングについて
6. その他

### 【配布資料】

資料1	医学部医学科における共通教育（教養教育）の米子移転の概要……	1
資料2-1	医学部附属病院保育所の概要……	9
2-2	関連する学内規則の整備について……	11
資料3-1	医学部医学科地域医療学講座（寄附講座）の概要……	15
3-2	関連する学内規則の整備について……	21
資料4	平成20年度概算要求一覧……	27
資料5-1	平成18年度財務諸表の承認通知書……	29
5-2	鳥取大学の財務状況について……	31
資料6	グローバルCOEの事業概要……	41
資料7	がんプロフェッショナル養成プランの事業概要……	47
資料8	平成18年度業務実績報告書に係るヒアリングの概要……	53